

保育士養成における授業方法の改善に関する研究 I

松 下 由美子・松 下 幸 司*

(香川短期大学・*香川大学)

1. はじめに

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材を、学生の受動的な学習のみで育成することは難しい。先ごろ発表された文部科学省 中央教育審議会の答申¹⁾では、大学教育の質的転換のために、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」とされている。併せて、大学教育の質的転換をもたらす教育方法の一例として、「個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業」などが挙げられ、学生たちはこれらの授業を受講し「主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。」とされている。

一方、保育士の質を高めることをめざした授業改善については、保育士養成大学・短期大学において、いくつか試みられ報告されている。例えば、「幼児音楽」の授業において、歌唱やピアノ伴奏などの個人の表現実践と保育における展開や指導体制とを織り交ぜて授業を行う取り組み²⁾や、保育内容「表現」と他領域との関係を考える領域意識向上をめざし、

表現活動を5領域全般で振り返る学習シートを活用する取り組み³⁾など、保育の特定領域内での保育内容・方法の相互関連性や、領域相互の関連性を学生に意識づけ学習効果を高めようとする授業改善がなされている。また、「子どもの食と栄養」を学ぶ授業において、前期15回で理論について基本的な知識を学んだ上で自らの食生活を振り返るなどし、後期には、前期で学んだ内容を調理実習や食育の計画・実践を、グループ演習として行う取り組み⁴⁾のように、理論や知識と実践とを関連づけるとともに、グループ演習によって学生の主体的授業参加を促す授業の工夫について報告されている。

しかしながら、保育士養成課程の授業において、学習内容について学生自らが情報収集を行い、学生相互にコミュニケーションを交わしながら学び合い高め合うことを積み重ねさせるというような、主体的・対話的な学びに重点を置く授業改善については、殆ど報告されていない。

本研究においては、冒頭に挙げた答申をふまえ、短期大学保育士養成課程の一授業において、「生涯にわたって学び続ける力」や「主体的に考える力」を持った保育士の養成をめざし、受講する学生が主体的かつ他者と協働して課題に取り組めるよう改善を試みた授業内容・方法について報告するとともに、受講した学生の受講状況と受講後の認識を基に、授業改善の成果と課題について検討する。

2. 研究方法

短期大学（保育士養成3年課程）に在籍する2年生37名を対象に、平成25年度前期に開講した「乳児保育 I」の授業において、『演習発表』を計画した。

平成29年11月21日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 子ども学科
TEL 0877(49)8060 FAX 0877(49)5252
Email matsushita@kjc.ac.jp

演習発表の課題は、①調査テーマに関する「指導の方法・手順と留意点、環境構成、および年齢（発達）と指導段階（目標と指導・援助方法）」などについて文献調査を行い、資料を作成して発表すること、②グループのメンバーで協力し合い、各自が責任を持って調査・資料作成・発表を行うこと、の2点とした。

2-1. 本授業改善前の授業について

発表者は、前年度（平成24年度）より、「乳児保育Ⅰ」（通年）を担当することとなり、前期はテキストを中心とした授業であった。しかし、受講している学生が主体的に考え、学ぶ授業とは言い難く、他者と協働して課題に取り組む場面もなかった。

そこで、これまでの知識の伝達・注入を中心とした授業から、

- 受講する学生自身が主体的に問題を発見し、解を見いだしていく能動的学習
- 他者と協力し合い問題解決を図る協働的学習を行う『演習発表』を計画し、同年（平成24年度）後期より試行的に授業に取り入れた。

2-2. 改善後の授業『演習発表』について

後期授業開始時、受講生に対し、以下の〔1〕～〔4〕の4点について演習発表の進め方を説明するとともに、〔5〕のように授業担当者が“モデル発表”を演示することによって、実際の発表活動の具体的なイメージを持たせ、発表におけるポイントや注意点を明示した。併せて、発表後に受講生自らの演習振り返りを行うとともに、授業改善などに資することを意図し、〔6〕のような振り返りシートを活用した。

〔1〕発表の方法

- ①発表時間は15分程度とする。発表後に質疑応答（5～7分）を行う。
- ②調査内容をわかりやすくまとめた発表資料を作成し、発表前に配布する。
- ③発表資料のサイズはA4・縦置き2枚とし、原稿は発表する前週の金曜日17時まで提出する（配付資料の印刷は授業担当者が行う）。
- ④文献調査内容を発表資料に記載する場合は出典を明記する。

⑤発表の際にプレゼンテーションソフトを使用したい場合は、発表原稿提出の際にその旨を申し出る。プレゼンテーションの枚数に制限はないが、発表時間内に収まるようにする。

⑥質疑応答において正確に答えることができなかった質問への回答や、さらに調査し、新たに分かったこと等は、次回授業時に補足発表を行う（5～10分程度）。

〔2〕調査テーマの設定

調査テーマの設定にあたっては、「乳児保育Ⅰ」の授業で取り扱うべき内容（乳児保育の意義、乳児期の発達、保育所等における乳児の生活と遊び、保健衛生および安全、保育の計画と記録、家庭・地域との連携、求められる保育士の資質など）の中から、①学生自身の生活やこれまでの経験において身近であること、②調査にあたり資料が入手しやすいこと、③発表時に実物や写真などの視覚教材を提示しやすいこと等を考慮し、12の調査テーマを設けた（資料1）。

〔3〕グループの編成

受講者は3～4名でグループを構成することとした。メンバーの構成は自由とし、グループからリーダーとサブリーダーを各1名選出した。

〔4〕調査テーマの決定

授業担当者が設定した乳児期の保育に関する12の調査テーマの中から、グループで相談し取り組みたいテーマを第三希望まで挙げ、そのいずれかを担当できるよう、授業担当者が担当グループを調整した。

資料1 12の調査テーマ

- ①歯の生え方
- ②歯磨きの方法と道具
- ③乳児向けの絵本の種類
- ④読み聞かせの方法と注意点
- ⑤母乳、人工栄養、離乳食の過程
- ⑥授乳や食事に使用する道具・調理器具
- ⑦手指の運動発達
- ⑧手指の運動発達を促す遊びの種類と遊び方
- ⑨言葉の発達（獲得過程）
- ⑩言葉の発達を促す言葉遊び・手遊び
- ⑪乳児期に起こりやすい事故
- ⑫安全な環境づくり

また、予め調査テーマには順に番号を付しておき、調査テーマの選択・決定と同時に、発表順と発表日が決定するようにした。

[5] 授業担当者による“モデル発表”の実施

受講者が演習発表に取り組むにあたり、発表の形式や方法等を具体的にイメージしやすいよう、授業担当者が事前にモデル発表を行った。

モデル発表のテーマは、受講者らが分担担当する調査テーマと重複しない「乳児の保育における行事」とした。主な発表内容は、保育所等において行う行事の意味と、乳児が参加可能と思われる年間行事の紹介についてであった。

また、行事の中から運動会を取り上げ、親子で参加するプログラムの内容・方法と、プログラムの中での保育士の役割についてもあわせて紹介した。

モデル発表の際には、発表資料の見本を提示した(資料2)。モデル発表の演示後、

- 資料のはじめに調査テーマ、発表日、発表者

を明記すること

- 見出しに番号を順に付すこと
- 図表やイラストなどを加えてもよいこと
- 出典や文献を明記すること

等のプレゼンテーション資料作成上のポイントや留意点について説明し、資料作成の参考とするとともに、聞く人にわかりやすい資料作成および発表となるよう指導した。併せて、発表時の言葉づかいや、質問への答え方などについても助言した。

[6] 学生による『演習発表』振り返りシート

すべての演習発表が終了した翌週の授業において、資料3のような『演習発表』振り返りシート』を用いて、この授業を受講した感想(9項目について4尺度でチェック)とその理由を、自分の「学び」を振り返って記入した(自由記述)。そして、グループでの調べ学習における目標の有無と、その具体的な目標について記入した。(資料3は、演習発表において用いた振り返りシートのうち、本研究

資料2 授業担当者による発表資料(見本)

調査テーマ「乳児の保育における行事」

発表日：2013年4月25日(木)
発表者：612000 松山下美子

1. 保育所における乳児の行事(乳児が参加可能と思われる行事)

月	行事	月	行事
4月	入所式・運動会 春の遠足(親子遠足)	10月	運動会 秋の遠足 保育参加(保育参観)
5月	子どもの日のお祝い(集い)	12月	生活発表会 クリスマス会
6月	歯みがき指導(歯科検診)		おもちゃつき
7月	七夕会 プール開き	1月	新年子ども会
8月	夕涼み会(夏祭り)	3月	ひなまつり
9月	お月見会 祖父母お招き会	各月	誕生会 避難訓練 身体計測

2. 乳児における行事の意味

1) 保育所の生活における活動の節目

乳児にとっての行事は毎日の生活を通してため込まれた力を蓄積する場でもあり、運動会や生活発表会などがあげられる。これは、子どもの保育所で日常の延長線ととらえられるものである。

また、日常ではあるが、少し異なる場でご一緒することは、ある種の期待感と緊張感等を与え、そういう場面でなければ発揮されにくい「思わぬ活動」が予想され、明日からの生活に彩りを添えるものであると考えられる。そのために、行事の内容には毎日の活動が「ある高まり」をもって持続され、反映されるもので、日常からかけ離れたところでの練習や特訓の成果ではないことを確認していきたい。

2) 伝統的な行事に触れる経験

正月やひな祭り、端午の節句など、民族の生活の中から生まれてきた祭り事がある。子どもがこの行事の意味を考えて理解しながら祝うということは難しいことであるが、その準備を行う大人(保育士)のいつもと違う様子が、ワクワクした気持ちをもたらし出す、いつもと違うもの(毎日の生活から切り離されたもの)にワクワクしながら触れることに意味があると考えられる。毎年の繰り返しの中で、いつの日かその意味を理解してその行事の継承者になっていく。そのように考えると、伝統的な行事も生活に彩りを添えるものとして大切に考えていきたい。多くの伝統行事や地域に伝わる行事の中から、本当に子どもたちに伝えたいものを選んでいきたい。

3) 大人が子どもとじっくり向き合う場

子どもの時間は非合理的で、一見、無駄と思われるようなことも含めて、ゆったりと流れている。この「子どもの時間」の流れに十分にひたる行事、たとえば親子遠足や親子遊びの会など。大人は「大人の時間」を忘れて「子どもに向き合い、子どもの楽しみを味わうことを通して、大人自身が楽しみ、楽しみながら子どもとの育ちを確認したり日常の子どものとの関係をふり返ったり、あるいは保護者と保育者の親睦をはかったり意見交換をしたりしながら、子どもについての理解を深めるものである。

3. 運動会種目(乳児向け)の例②-4)

1) 0～1歳児向け

ハイハイハイキング

2) 1～2歳児向け

コロコロボール運び

3) 2～3歳児向け

ハジヤマ宅配便

【引用文献】

1) 阿部和子編著：乳児保育—子どもの豊かな育ちを求めて—, pp.63-65, 朝倉書林, 1998.
 2) 鈴木みゆき編著：0～1歳児の保育資料 12か月, p.45, ひかりのくに, 2000.
 3) 鈴木みゆき編著：1～2歳児の保育資料 12か月, p.45, ひかりのくに, 2001.
 4) 鈴木みゆき編著：2～3歳児の保育資料 12か月, p.57, ひかりのくに, 2001.

資料3 『演習発表』振り返りシート

『乳児保育Ⅰ』（後期について）振り返りシート

学籍番号 _____ 名前 _____

自分の受講について振り返りましょう。

■乳児保育Ⅰ(後期)の授業を受講し、あなたはどのように感じましたか。(交点に○)	ど ら う か ら い な い	そ う か ら い な い	ど う か ら い な い	そ う か ら い な い
おもしらかった	_____	_____	_____	_____
よくわかった	_____	_____	_____	_____
思考を深められた	_____	_____	_____	_____
がんばれた	_____	_____	_____	_____
楽しかった	_____	_____	_____	_____
やる気をもって望めた	_____	_____	_____	_____
グループで協力して活動できた	_____	_____	_____	_____
考えてみたい事や 見つけてみたい事が見つかった	_____	_____	_____	_____
受講してよかった	_____	_____	_____	_____

■左のようにあなたが思った理向を、自分の「学び」を振り返って書いてください。(できるだけ具体的に、詳しく書いてください。)

■乳児保育Ⅰで、グループごとに「調べ一まとめ一発表する」という一連の活動の中で、あなたは何か自分なりの目標をもって活動をしていましたか。(ほらちかにはきつても)

() 特に目標はなかった。 () 目標があった。
↓「目標があった」に○をつけた人は、次の質問にも回答してください。

●あなたはどんなことを目標に活動をしましたか。(できるだけ具体的に書いてください)

において報告する項目を抜粋したものである。)

3. 結果および考察【試行授業の成果と検討】

3-1. 学生による演習発表の成果と課題

(1) 資料の変容

中期の発表資料の一例が資料4である。このグループにおいては、5つの見出しを設定して内容を整理できていた。また、インターネット上に掲載されている資料や図表をそのまま転載するのではなく、2冊の書籍から必要な文章を引用し、自分たちなりの2つの表にまとめ直していた。さらに、発表テーマ「食事の道具」に関連させつつ発想を広げ、「離乳食レシピ」を紹介するという、発表内容を充実させる工夫も見られた。

後期の発表資料の一例が資料5である。このグループにおいては、テーマに沿った内容が詳細に調べられ、資料にまとめられていた。記述量も増加し、章立てや小見出しを設定するなどのフォーマッ

トの定着も見られた。

このように、演習発表の回数を重ねるにつれて、発表グループが準備する資料が整備され充実したものとなっていく傾向が見られた。

(2) 発表スタイルの変容

授業担当者によるモデル発表時、発表のはじめに「発表テーマ、発表日、発表者」を述べて発表を開始すること、発表を終える時の言葉、質問を受ける時の言葉などについて示しておいた。受講生の初回の発表から回数を重ねるほど、それらの基本的な発表スタイルの定着が認められた。また、発表の際に注目してほしい資料や具体的な箇所を示す言葉や、質問への応答時の言葉についても、少しずつ用いられるようになった。さらに、実物を用意したりイラスト・写真などの視覚教材を提示したりするなど、わかりやすく伝える工夫をしようとするグループも見られるようになった。

(3) 発表に対する質問の変容

演習発表前期の発表後の質疑応答時間には、1～2名の質問者はあるものの、多くの受講者からは質問がなかった。授業後、受講者からは「質問が思い浮かばなかった」「他の人と同じ質問だったので（質問を）しなかった」という声があがっていた。

中期以降は、少しずつ自ら挙手して質問できるようになったが、質問者に偏りがみられた。また、質問内容としては、発表や発表資料中の言葉の意味を尋ねたり、説明を求めたりするような質問が多かった（「○○は何ですか」「△△とは、どういう意味ですか」といった質問）。

さらに、演習発表の回数を重ねるうちに、次第に、発表内容には含まれていないが、それに関連して、子どもの様子を推察して質問したり、自分が子どもにかかわる場面を想定した質問（「●●の場合は、どのような対応が望ましいか」といった質問）をしたりする受講生が現れた。

これらのことから、受講者の中に、より多くのことを知りたいという意欲の高まりが見られたのと同時に、保育実践に向けて子どもの様子の捉え方や子どもへの対応のしかたを考えながら学ぼうとする姿勢の変化があったと考えられる。

3-2. 学生の振り返りシートに基づく成果と課題

演習発表後の振り返りにおいて、この授業を受講してどのように思ったかを尋ねた結果を演習発表の4尺度自己評価にまとめた（図1）。項目「頑張れた」について「そう思う」と答えた者は50.0%であった。また、「グループで協力して活動できた」が51.4%、「受講してよかった」が56.7%となった。「どちらかといえばそう思う」も含めると、「頑張れた」は100%、「グループで協力して活動できた」「受講してよかった」「思考を深められた」「おもしろかった」「よくわかった」「やる気をもって臨めた」についても90%以上となった。

次に、自分の「学び」を振り返って記入した自由記述をカテゴリ分析してまとめた（図2）。これによると、「自分の知らなかったことがわかってよかった」というような「自分たちの内容の学び」について答えている者が37名中16名（43.2%）と最も多く、次いで、「他のグループの発表で知らなかったことも多かったので、受講してよかった」といった「他者からの内容の学び」は9名（24.3%）であった。また、「グループ学習の価値」を挙げていた者は8名（21.6%）であった。

受講する学生が「主体的かつ他者と協働して課題に取り組める」という視点から、「グループ学習

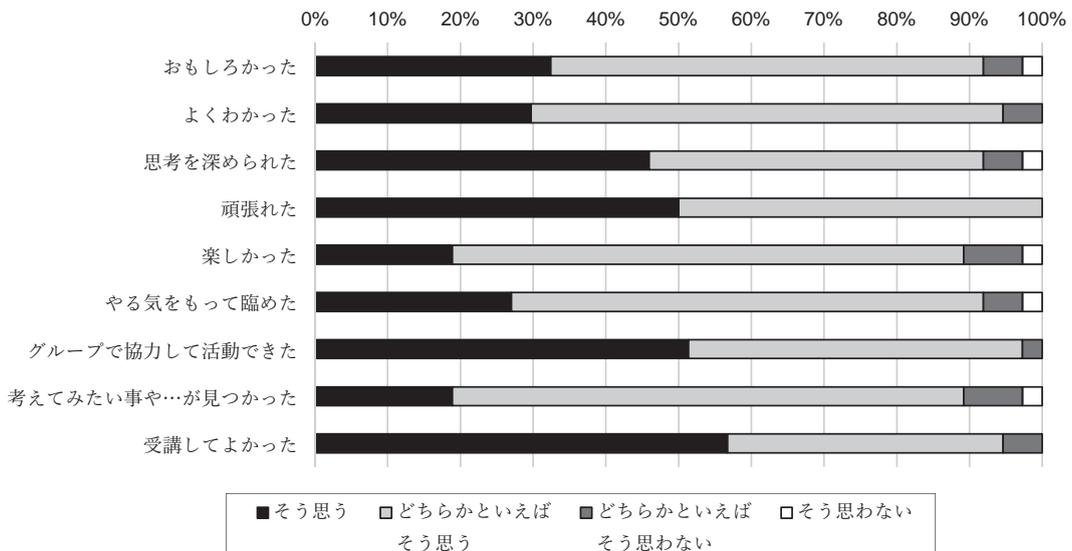


図1 演習発表の4尺度自己評価

の価値」に含まれる自由記述を資料6にまとめた。「グループの人と話し合いをし、一緒に作っていくことはとても大切だと学んだ」「グループで協力し

て調べ、自分たちの言葉で伝えるというところがよかった」「協力して調べることで頭に入るし、自分の知らなかったことがわかって楽しかった」「グルー

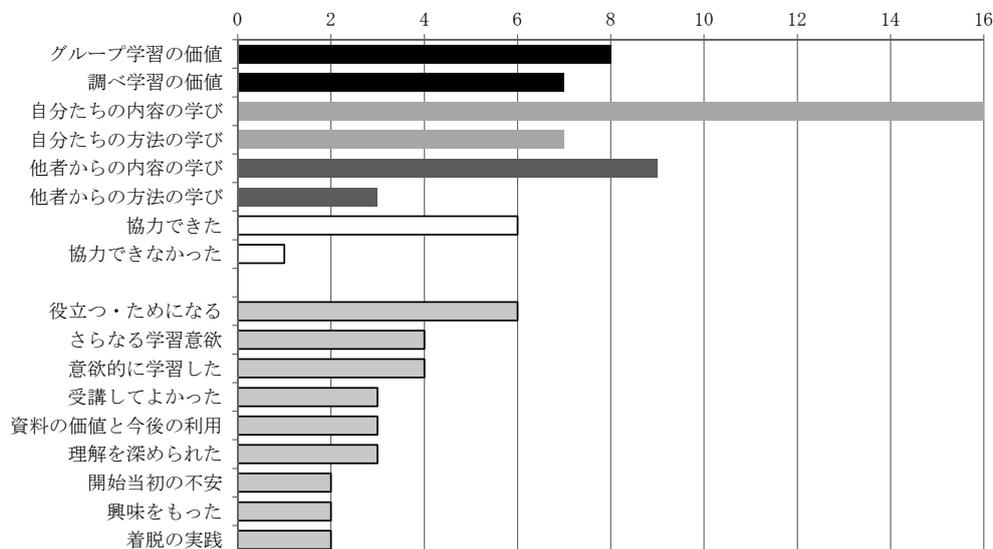


図2 自由記述のカテゴリ分析結果 (単位: 人)

資料6 「グループ学習の価値」に含まれる自由記述

- 学生1 (グ2): できるかと不安はあったが、グループの人と話し合いをし、一緒に作っていくことはとても大切だと学んだ。他のグループの発表を聞き、まとめ方も学べた。
- 学生5 (グ2): グループで協力して調べ、自分たちの言葉で伝えるというところがよかった。他の発表を聞き、シートにまとめる、質問をするという機会があってよかった。
- 学生10 (グ8): みんなが協力して調べることで頭に入るし、自分の知らなかったことがわかって楽しかった。
- 学生11 (グ6): 自分たちの発表で授業を作り上げていく感じが新鮮でおもしろかった。テーマについて自分から調べようという気持ちが出てきた。どんな質問をされるか予測して様々なことを調べることができた。調査テーマが幅広いものだったので、グループでの協力が必要だということを学んだ。他のグループの発表から発表方法や知識を学ぶ事ができ、とても役立った。
- 学生15 (グ7): 今後、役立つことばかりだったので、保育で活かせるように、自分なりにまとめ直したいと思った。楽しくグループで協力して調べ、まとめる事ができたのでよかった。他のグループの発表で知らなかったことも多かったので、受講してよかった。
- 学生21 (グ3): クラスでチームに分かれて発表し合うことで、一つ一つのテーマについて詳しく調べることが出来、またテーマ一つ一つが自分が保育者になって知っておきたい、役立つことばかりだったので、とてもこの学習は良い経験になったと思う。
- 学生23 (グ12): グループでの発表は、グループで協力して課題を進められるし、グループ全体の責任となるので、個人での課題に比べてやる気が出せた。
- 学生29 (グ10): 自分たちで調べることは楽しかった。他のグループの発表を聞いて、自分たちも頑張ろうと思った。グループのみんなで協力して調べ、発表の練習も行った。このような経験ができたので受講してよかった。

(下線は筆者/下線は「グループ学習の価値」カテゴリのキーワードを示す。)

ブでテーマについて詳しく調べることができた」等の記述が見られ、グループで学習した経験から、受講者は協働の大切さや、自分の言葉で伝える価値を感じることができていた。また、一つのテーマについて詳しく調べることや、グループ学習で自主的に取り組むことにより、内容が理解しやすいという感想も聞かれ、新しいことを知る楽しさや探究心をもって学習に取り組めたと考えられる。

また、「グループで協力して課題を進められるし、グループ全体の責任となるので、個人での課題に比べてやる気が出せた」「自分たちで調べることは楽しかった。他のグループの発表を聞いて、自分たちも頑張ろうと思った」という記述からは、課題を進める中でグループとしての責任感が生まれるとともに、他のグループの発表に刺激を受け、益々やる気が持てる等、学習意欲の高まりとなったことがわかった。

さらに、自由記述において、「グループ活動の価値」を挙げていた学生の他の項目への回答をみると(表1)、全員が「受講してよかった」の項目に「そう思う」と回答しており、8名中7名が「グループで協力して活動できた」の項目に「そう思う」と回答していた。また、その他、「思考を深められた」「頑張れた」の2項目には8名中5名、「楽しかった」「やる気をもって臨めた」の2項目には、8名中4名が「そう思う」と回答し、その他も「どちらかといえばそう思う」と回答していた。このような

回答傾向から、やる気をもって学習に臨み、内容を十分に理解でき、思考を深められたという受講者の実感が、「頑張れた・楽しかった」という充実感につながったものと思われる。

そして、「学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)」の視点から、「調べ学習の価値」に含まれる自由記述を資料7にまとめた。「自分で調べてみると、知らないことが多く、調べるのが楽しかった」「すぐ調べたら詳しく分かるんだなあと思った」「取り組む前は難しいのではと感じていたが、調べていくと、とても楽しく、新しい発見もあり改めて学ぶことができた」という記述から、受講者自らが「調べる」ことで、知らないことがわかり、新たな発見となっただけでなく、「調べればわかる」ことを経験したことで、調べることや調べてわかることの楽しさを感じられたといえよう。

そして、「自分たちの発表で授業を作り上げていく感じが新鮮」「テーマについて自分から調べようという気持ちが出てきた」「質問を予測して様々なことを調べることができた」「調べたことによって、これからの実習にも絶対に役立つ調べ学習だと思った」という記述からは、受講者は「自分たちがつくる」授業の主体としての認識をもつことができ、それが、学習意欲の高まりや自信となっていた。また、自分で調べることが十分な理解につながり、「実習にも絶対役立つ」といった知識・技能の有用

表1 「グループ学習の価値」を記述した受講生の他項目への回答傾向

	おもしろかった	よくわかった	思考を深められた	頑張れた	楽しかった	やる気をもって臨めた	グループで協力して活動できた	考えてみたい事や…が見つかった	受講してよかった
学生1	4	4	4	3	4	4	4	4	4
学生5	3	3	3	4	3	3	4	3	4
学生10	3	4	4	3	3	3	4	3	4
学生15	3	3	3	4	4	3	4	3	4
学生21	4	4	4	4	4	4	4	3	4
学生23	3	3	3	3	3	4	4	3	4
学生29	3	3	4	4	4	3	4	4	4
学生11	3	3	4	4	3	4	3	4	4

4: そう思う 3: どちらかといえばそう思う 2: どちらかといえばそう思わない 1: そう思わない

感を得ることができていた。

「調べ学習の価値」を記述した者の他の項目への回答をみると（表2）、7名中5名が「思考を深められた」「受講してよかった」について「そう思う」と回答しており、4名が「よくわかった」「頑張れた」「グループで協力して活動できた」の3項目で「そう思う」と回答していた。自ら調べてわかるという経験に価値を見いだした受講者は理解や思考の深まりとともに、自分の取り組みにも意義を見いだ

し、達成感を感じられたと推察される。

4. まとめと今後の課題

今回、「乳児保育Ⅰ」を受講した学生は、「保育者」という同じ目標をもった仲間と『演習発表』を経験し、他者と協力して課題に取り組む大切さやグループの一員としての自己の責任、自分たちの言葉で伝えるよさ等を感じていた。

資料7 「調べ学習の価値」に含まれる自由記述

学生3（グ5）：	自分で調べてみると、知らないことが多く、調べることが楽しかった。
学生10（グ8）：	みんなが協力して調べることで頭に入るし、最近はずぐ調べたら詳しく分かるんだなあと思った。自分の知らないことが知れて楽しかった。
学生11（グ6）：	自分たちの発表で授業を作り上げていく感じが新鮮でおもしろかった。テーマについて自分から調べようという気持ちが出てきた。どんな質問をされるか予測して様々なことを調べることができた。調査テーマが幅広いものだったので、グループでの協力が必要だということを学んだ。他のグループの発表から発表方法や知識を学ぶ事ができ、とても役立った。
学生22（グ4）：	調べたことによって、これからの実習にも、絶対に役立つ調べ学習だと思った。自分たちだけでなく、クラスの全員が発表を行うことで、多くのテーマについての情報を知る事ができた。質問をすることで、より深く詳しくその内容について知りたいと思えた。
学生27（グ6）：	知らなかったことを多くの発表から知ることができてよかった。まちがいに気付けた。調べる過程でなるほどと思うことが次々に出てきて、それらを選ぶことが大変だった。
学生33（グ9）：	取り組む前は難しいのではないかと感じていたが、実際に調べていくととても楽しく、新しい発見もあり、改めて学ぶことができた。
学生36（グ10）：	発表のために計画的に準備・発表練習ができたので、自信が持てた。自分たちで調べたので、内容を十分に理解することができた。

（下線は筆者／下線は「調べ学習の価値」カテゴリーのキーワードを示す。）

表2 「調べ学習の価値」を記述した受講生の他項目への回答傾向

	おもしろかった	よくわかった	思考を深められた	頑張れた	楽しかった	やる気をもって臨めた	グループで協力して活動できた	考えてみたことや…が見つかった	受講してよかった
学生27	4	4	4	4	3	4	3	3	4
学生22	3	4	4	4	3	4	4	3	4
学生36	3	4	4	4	3	3	4	2	4
学生11	3	3	4	4	3	4	3	4	4
学生10	3	4	4	3	3	3	4	3	4
学生33	4	3	3	4	3	3	3	3	3
学生3	3	3	3	4	3	3	4	3	3

4：そう思う 3：どちらかといえばそう思う 2：どちらかといえばそう思わない 1：そう思わない

また、自分で調べることで楽しさを感じられた、学習意欲が高まった、理解が深まった、という振り返りの感想からは、「調べる」ことで、知識が増え、新たな発見の喜びを感じられていた。これらが、協働の大切さとともに「授業への満足度」につながっていると思われた。

このような経験は、将来、保育現場で仕事をする上でも必要と思われる。組織の一員として、他者と協働しながら自分の役割を果たすことのできる保育者を養成するためには、主体的・協働的に課題解決に取り組む機会を、保育士養成の授業においても意識的に組み込み、経験を重ねる中で課題解決に必要な知識・技能を身に付けさせるとともに、主体的・協働的な課題解決の価値に気付かせることが必要だと考える。

参考・引用文献

- 1) 文部科学省 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」平成24年8月28日
- 2) 村山ひろみ「保育士養成における音楽の授業改善」（『児童教育学を創る—福山市立大学開学記念論集—』児島書店，293-311，2011）
- 3) 仲嶺まり子・高濱正文・秋元文緒「保育者養成における表現活動を通して領域意識向上の試み」別府大学短期大学部紀要，（36），1-10，02，2017
- 4) 鷲見裕子「保育士養成課程の「子どもの食と栄養」による食育実践力育成の検討」高田短期大学紀要，33，41-48，03，2015